

# 山形県立農業大学校

# 同窓会だより

## 第8号

平成22年 9月30日  
 発行/山形県立農業大学校同窓会  
 〒996-0052 新庄市大字角沢1366  
 (山形県立農業大学校内)  
 TEL0233-22-1527  
 FAX0233-23-3119  
<http://www12.ocn.ne.jp/~ynodai>

### フロンティア精神で

同窓会長 庄司 茂  
 (金山町 昭和48年度卒)



秋の深まりとともに、農作物の収穫作業に

忙しさも本格化してきておりますが、同窓会の皆様には各地域におかれ、益々御活躍のことと思います。

今夏は、冷夏という大方の予想を覆し、七月の梅雨明け以降、全国的に三十度を越す日々が続きました。九月に入ってもその勢いが収まらない状態が続いております。この長期間にわたる暑さで、様々な面で一喜一憂している方も多いかと思われまます。

さて、昨年の政権交代に伴い、個別所得補償モデル対策など農業政策も大きな変革の時代に入りました。既に、個々の農家の経営形態も大きく変わろうとしております。また、農作物の輸入増大、農産物価格の低迷など農業を取り巻く環境は依然として厳しい情勢にあります。このような時代こそ、担い

手の育成が益々重要な課題であり、本県においては、農業大学の果たす役割が一層大きいものと確信しております。平成十九年三月にまとめられた「農業大学校機能強化整備構想」に基づき、その期待に応えられるような、多様なカリキュラムの確立や各種取り組みなどが実践されております。

我々同窓会は、これら担い手の手本となり、そして共に農業の新たな可能性に向け、フロンティア精神で邁進して行こうではありませんか。

今後とも会員二、九六四名の組織の一層の充実を図り、農業大学校とともに本県担い手育成のために精励してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

### 本県農業の元気再生を担う人材育成を目指して

農業大学校長 百瀬 清昭



今年度も五十六名の若々しい農業の担い手達が農業大学校の門をたたきました。

四月以来、異常低温また宮崎県での口蹄疫の発生・蔓延、梅雨明け後の異常高温続きと、本県並びに我が国の農業にとつては大きな試練が課されております。

本校の学生達は肌を刺す様な寒さの中で、おとうの霜対策をはじめ、実習ほ場の準備、定植作業、口蹄疫の防疫対策、そして猛暑の中での作物管理にと悪戦苦闘しながら実践学習に取り組んできました。その結果、農作物の生育は回復し、ほぼ順調に推移しております。

このような変化の激しい自然環境

への対応は、生き物を対象としている農業の性格上やむを得ないことですが、学生達にとつては生涯にわたり貴重な経験や財産となることでしよう。

教育面では、農産加工経営学科に第二期生を迎え、五経営学科・七コース体制が整い、新たな教育体制がスタートいたしました。農業の総合産業化を目指し、教育内容を一層充実強化してまいりたいと考えております。

本県では、農林水産業を起点とした産出額三千億円を目指した「元気再生戦略」に基づき各種事業が展開されておりますが、これらを担う優れた人材の育成が最重要課題となっております。本校で学ぶ学生と研修生に対する期待は大変大きなものがあります。これらに十分応えられるよう教職員一丸となって教育研修を進めてまいりますので、同窓会の皆様からの温かい御支援をよろしくお願ひいたします。



舞台は農大 目指せ農のスペシャリスト

**会員の声**  
**オンラインの温室STAY**

三川町 庄司 喜幸 (平成20年度卒)  
去年、私はオンラインで、温室野菜の栽培の仕方などの研修をしました。研修農場は2か所で、最初の農場は、首都アムステルダムにほど近い所であり、2か所目の農場は、ドイツの国境20kmのところがありました。

初めて見る巨大な農場や、日本とは違う栽培方法など一日がとても新鮮でした。海外に行くと、自国と他国の農業のやり方や習慣、言葉の違いがありますが、農場主や同僚、研修生たちの支えがあつてこそその研修だと思ひました。時に笑い、時に衝突もありましたが、それも研修の醍醐味なのかなと終わつてから気づくことが多々ありました。研修13か月の体験を、今後の農業に取り入れていきたいと思ひます。



**山形大学に編入して**

寒河江市 伊藤 俊 (平成20年度卒)  
私は農大を卒業後、山形大学へ編入しました。編入した理由は、農大で生産学を学ぶうちに、農産物の生理的機構に興味を持ったためです。現在は、研究室で品質変化のメカニズムや、青果物に適した収穫後の管理などの研究を行っています。大学では新しい仲間との出会いや、様々なイベントなどで刺激ある毎日を送っています。しかし、慣れない英論文やレポートで、自分の無力さを痛感させられる場面もあります。その際には、自分が成長できるチャンスだと思つて乗り越えてきました。私は、残りの在学期間を有意義なものにするために、目標を持ってチャレンジし、大学で得たものを今後に活かしていきたいと思ひます。



**就農一年目の現状**

河北町 岡崎 吉秀 (平成21年度卒)  
私は、今年の四月に就農しました。我が家は水稲10ha、大豆1ha、ねぎ70a、オウトウ80a、たらの芽30aの複合経営です。今年の四月に就農してからは、毎日の仕事が楽しく、自分なりに頑張っています。今日も、分からないながらオウトウの夏季せん定を行いました。私は農大でブドウを専門に勉強したので、オウトウについては分からないことがたくさんあります。また、ブドウを専攻した私は、我が家の経営に取り入れたいと考えたからです。しかし、今は、ブドウの苗木を植える畑がないため、父と相談しながら、一日も早くブドウ園を作りたいと思っています。今日の日標は、おいしいオウトウとブドウを作る技術を習得する事です。



# 農大市場今年もオープン

平成16年10月、創立50周年記念事業の一環として同窓生の皆様の御協力により建設されました。

▲ハンバーグ おいしいよ!!  
▲梅ぼし、味そ 自信あります  
▲採れたて野菜 みずみずしいね  
▲ようこそ 農大市場へ  
▲農産物等が当たる大抽選会  
▲花束 どれにしようかな  
▲お楽しみ企画 スイカの試食  
▲お米はいかがですか

**これまでの農大機能強化整備構想の経過**

農大の機能強化整備構想については、本会報6号、7号で、その都度経過を紹介してきました。そこで、本号ではその取り組みの主な内容を紹介します。

本構想は遡ること五年前の平成十七年七月の「農大機能強化検討委員会」の設置に始まり、「農業大学校の目標」「教育内容の充実強化」「学習環境の整備」「農高、大学等との連携」「就農への支援と指導」等が検討され、報告書として発表されました。

その翌年の七月には「農大機能強化推進会議」が新たに設置され、「新教育目標」「平成二十年度果樹経営学科の新設」「平成二十一年度農産加工経営学科の新設」時代に即応したカリキュラムの見直し、「農業高校との連携強化」等具体的な報告がなされました。最終的に、平成十九年三月に「山形県立農業大



▲ICT教室での授業風景

学校機能強化整備構想」としてまとめられ、以降本校の道標として、今年歳末着実な歩みを進めてきました。その主な内容を御紹介します。

**一 農業大学校の魅力向上**

- 地域連携会議の設置 (平成十九年以降毎年開催)
- 専修学校化 (平成十九年四月)
- 山形大学農学部三年次編入試験合格 (平成二十年七月)

**二 時代に即した学習機会の創造 (養成品)**

- 果樹 (平成二十年四月)・農産加工経営学科の新設 (平成二十一年四月)・ITや販売実践の活用 (平成十九年四月) 等による経営能力向上など

**三 広く「農」の担い手を養成する仕組みづくり (研修部)**

- 新規就農の促進のための戦略的な研修推進 (平成十九年四月継続強化)
- 親子農業教室等の開催による県民の農業に対する理解の促進 (平成十九年四月)



▲「先進経営者研究」視察研修

継続強化) など

**四 教育の高度化を目指した他の教育機関等との連携強化**

- 農業学科設置六高校との協定締結 (平成十九年十一月)
- 山形大学農学部と学術交流に関する協定締結 (平成二十二年九月) など

**五 就農促進のための取り組みの推進**

- 就農等を促す体制強化や卒業生等の支援体制強化 (平成二十年四月) など

**六 教員の質の向上**

- 大学コンソーシアムやまがたを活用した他大学等との連携取り組み (平成十九年四月) や各種研修制度の活用

**七 学習能力や魅力向上のための教育環境の整備**

- 果樹関係施設整備 (平成二十年四月)
- 農産加工棟の施設整備 (平成二十一年三月) など



▲全国プロジェクト発表会 (H22.2)

機能強化整備構想が、この五年間で全て達成されたものではありません。今後も皆様方から多くの意見等をいただきながら、立ち止まることなくソフト、ハードの両面の一層の充実強化に努めていきたいと思います。

**会報7号以降の農大の変化**

【平成二十年】

- 四月 進路指導強化 (就農、就職、進学)
- 二月 全国プロジェクト発表会で、農林水産大臣賞、農林水産省経営局長賞受賞
- 三月 さくらんぼ加温ハウス完成
- 四月 農産加工経営学科新設
- 七月 山形大学編入試験二名合格

【平成二十一年】

- 二月 全国プロジェクト発表会で、農林水産省経営局長賞、同窓会全国連盟会長賞受賞
- 七月 山形大学編入試験五名合格
- 宮城大学編入試験一名合格
- 九月 山形大学農学部と学術交流に関する協定締結

**キャンパスライフ** (今年度の行事から)

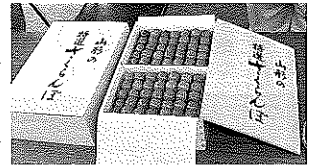
米田農業研修  
卒業論文中間検討会  
入校式  
三県対抗球技大会  
さなぶり  
スタジオパーティー

# あねね校母

●今年度初めての取り組みとして、1学年を対象に「先進経営者研究」が、4月26日から27日の1泊2日の日程で実施され、優れた農業経営で、様々な賞を受賞している東北三県の会社や法人を視察しました。ねらいは、「目標とする経営者像を早期に発見させ、経営者の視点で2年間の学習を深める」というものです。参加した学生達は、経営者の経営理念や経験談に、熱心にメモを執っていました。

●2学年の海外農業研修が9月7日から16日まで、10日間の日程で実施されました。視察先は、米国カリフォルニア州とコロラド州です。A班(稲作・果樹・畜産)とB班(野菜・花き・農産加工)の2班に分かれ、分野別に視察研修を行い、アメリカの農業を肌で感じる事ができました。また、コロラド州では3泊4日のファームステイを体験し、生活習慣の違いにもふれることができました。海外農業研修は、今回で19回目となります。

●「農大市場」は今年で6年目を迎え、地域にもすっかり定着しています。今年度は、新たに学生の販売組織(株式会社WN)を立ち上



げました。桐箱入り佐藤錦や山形県産米お試しセットなど、ひとつひとつの「ひよ」を数量限定で販売するなど、農大市場を通して生きた経営を学んでいます。また、採れたての野菜や果物、花、加工品などは毎回好評で、売行きも上々です。農産物が当たる「大抽選会」など、趣向をこらした企画で、皆様のお越しをお待ちしています。

●販売日 7/3・7/29・8/11  
9/17・10/2・11/3  
(年六回)

●時間 午前10時～11時30分

●場所 農業大学校敷地内

●全国農業大学校協議会主催の平成22年度学生募集ポスターコンクールに於いて、本校のポスターが最優秀を受賞しました。最優秀を受賞したのは、2年連続です。また、ホームページコンクールに於いても、2年連続で最優秀の栄誉に輝き、高い評価を得ることができました。



平成22年度学生募集ポスターコンクール最優秀受賞

## お知らせ

◆各種証明書の申請手続き  
各種証明書の発行を申請する場合、一通につき二六〇円の「山形県収入証紙」(原証紙)が必要で、申請書に必要事項を記入し、農業大学校窓口で申請してください。様式はホームページ (<http://nodai.ac.jp>) からダウンロードできます。

◆問合せ先 農業大学校総務課  
0233-221-1527  
0233-231-3119

◆同期会助成金  
同期会を開催する場合、助成金として一万円を支給します。お申し込みは、同窓会事務局までお願いします。

◆携帯からは  
こちら

◆携帯からは  
こちら

◆携帯からは  
こちら

## 平成22年度 同窓会役員

総支部名	役職名	氏名	期	市町村名
最上	会長	庄司 茂	19	金山市
最上	副会長	佐藤 新一	15	山形市
鶴岡田川	副会長	半沢 信明	15	山形市
東南村山	副会長	井上 俊幸	25	飯豊町
最上	副会長	今田 浩徳	30	新庄市
東南村山	監事	中川 芳美	22	山形市
最上	監事	松田 竹男	32	新庄市
最上	監事	三原 誠	42	新庄市
東南村山	理事	森谷 恵一	46	天童市
西村山	理事	設楽 秀平	2	西川町
西村山	理事	菊地 隆男	4	寒河江市
北村山	理事	朽木 一男	31	東根市
北村山	理事	鈴木 正人	10	尾花沢市
北村山	理事	菊地 孝子	22	大石田町
最上	理事	森 正昭	7	新庄市
最上	理事	小屋 正志	8	鮭川村
最上	理事	荒川 喜一	10	戸沢村
最上	理事	柴田 悦郎	11	鮭川村
最上	理事	高橋 弘嗣	14	鮭川村
最上	理事	叶内 千代子	15	鮭川村
最上	理事	高橋 真哉	28	鮭川村
最上	理事	三宅 充弥	36	真室川町
東南置賜	理事	角屋 耕吉	14	米沢市
東南置賜	理事	畔田 一徳	26	南陽市
西置賜	理事	新野 英一郎	20	長井市
鶴岡田川	理事	太田 裕徳	27	鶴岡市
鶴岡田川	理事	杉山 司	45	鶴岡市
鶴岡田川	理事	小南 賢史	48	鶴岡市
酒田鮑海	理事	伊藤 秀一	14	酒田
酒田鮑海	理事	高橋 義博	37	遊佐町
最上	顧問	津藤 次雄	13	鮭川村
最上	事務局長	武田 善輔	45	新庄市
最上	事務局長	竹田 美津樹	45	新庄市

## 平成23年度 農業大学校学生募集

募集人員 50名(推薦、一般入校あわせて)  
 修業年限 2年  
 応募資格 高校卒業又は求春卒業見込みの者(推薦入試は、求春、県内高校卒業見込みの者)  
 試験日  
 推薦入試 平成22年11月8日(月)  
 一般入試(前期) 平成22年12月10日(金)  
 一般入試(後期) 平成23年2月28日(月)  
 出願期間  
 推薦入試 平成22年10月18日(月)～10月25日(月)  
 一般入試(前期) 平成22年11月19日(金)～11月29日(月)  
 一般入試(後期) 平成23年2月4日(金)～2月14日(月)  
 問合せ先 農業大学校 入試担当  
 〒996-1005  
 新庄市大字角沢1366  
 ☎ 0233-221-1527  
 FAX 0233-231-3119  
 E-mail ynodai@pref.yamagata.jp